
World Creation ～世界の創像～

聖剣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

World Creation 〈世界の創像〉

【Nコード】

N0986Z

【作者名】

聖剣

【あらすじ】

昔、世界は大きな戦争により痛手を受けた。

その戦争はある英雄らにより終わった。

そんなものおとぎ話。そうに決まってる。

そう思っていた音宮 徹。 変わらない毎日をすごし、変わらない会話。それがすべてであり世界の姿だと思っていた。

だが違った。世界はもっと大きな危機に直面していた。

そのことはすべての人間は知らなかった。

序章 世界の姿、神の決断（前書き）

はじめまして。聖剣です。

今回は自分のにはうまく出来たと思いますが地の文が全然うまくいかなく下手なところがありますがよろしくお願いします。

あと少しだけアニメなど力が混じっている時やストーリーに関わってくることもあるかもしれませんが極力さけて作っていきますのであった場合は指摘お願いします。

序章 世界の姿、神の決断

神の力。それは世界を支配する力。

数々の神の力の断片。誰にでもある力だ。

説明をするなら、宝くじで当たった人間。それは超人的な勘である。それは神の力を微量ながら受けたものだ。

人間はその力を無意識に使っている。

運、占い、霊媒師、などの仕事は全て神の力である。

だがそれは正の道。

だったら邪の道は？

邪の道は魔術、異能力などの類である。

ストレス、思い、感情、などにより神の力を大きく受けている者たちできるものだ。

それを書き記したものが魔道書。神の力を受け継いだものが自ら編み出し書き記したもの。

その本は人間でも使えた。

人間は神の力の何百万分の1を受け継いでいる。

それだけあればたいいの人間は使える。

だがそれにより世界は変わった。

虐殺、騙し合い、戦争による世界の混沌。

それを神は認めなかった。

そして神は世界の破壊を選んだ。

全てをゼロに戻すために、

序章 世界の姿、神の決断（後書き）

どうも前書きで挨拶をさせていただきました。

なにかダメなところなどはあったでしょうか？それと治すところやここをこうすればよくなるというところはお有りでしょうか？あった場合指摘などをいただくと嬉しいです。

第1章 変わらない朝（前書き）

第1章です。まだバトルになっていませんがこれからよろしくお
願いします。

第1章 変わらない朝

電柱柱が何本も突き刺さった道。

どこにでもあるような道。

その道で大荷物を抱えながら歩く少年音宮徹がいた。

ハア、とため息をつき、なにげない道を歩く。

なぜ歩いていたのか、それはこれから自分の通う学校に行くためだ。

その学校は寮制らしい。しかも今年作られた学校であり、入学するものも少ないらしく、寮の部屋は一人一部屋らしい。

こんな太っ腹な高校があつていいのだろうかと考え込む。

（ああ、だめだ。こんなことを考えていたら脳が壊れちゃうな）

音宮は考えることを止めた。

ぼふ、と言う音が後ろから聞こえた。

（ん？なんだ？）

音宮は後ろを振り返るとそこにはどこに学校かはわからないが、制服を着用しエメラルドの髪の色をもち、目は日本人のような漆黒の黒だった。

その姿がいやにも似合ってる可愛らしい少女がいた。

（外人か？やばいな、俺英語しゃべれないよ！？）

音宮は考える。どうこの外人の相手をするかを。だがでてこない、解決策が！

「えっと、ごめんなさい、」

不意に謝ってきたため思考をそちらに戻した。

「え？いや、こっちこそゴメン。こんなデカイ荷物持って、歩いてるほうが悪かったよ。」

良かった。目の前の少女は日本語が通じるらしい。おそらくハーフだろう。

目の色的にも日本人に近いが、肌や髪の色は外人じみてる。

「あの、高校生？私、愛香・C・ヴァリフェールって言います。日本では宮沢愛香だから日本の名前です。一応、高校1年生です。」

「ああ、俺も高1だ。名前は音宮徹、よろしく。」

お互いに自己紹介は済ませたが話題が見つからない。

初めて会ったためもあるが女の子と話す内容など今世紀であまりなかった、と音宮は悲しくもそんなことを考えていた。

話題、話題、話題、話題、話題、話題、。

「宮沢ってどこの高校なんだ？」

音宮は自然にその話題を持ちかけた。考えた末でた結論がこれか、と落ち込むがこの空気を打破できたことには変わりはない。

「えっと、私は最近出来た、神立学校っていう学校だよ。わからないけどお爺様がここに入れて、」

これはなんたる偶然か。音宮も神立学校なのだ。

受けた理由もほとんど一緒。友達約3名にここに一緒に行くぞ、と強引に誘われ、勉強しないで受けてなぜか合格という奇妙な学校である。

おまけに寮まで一人一部屋という贅沢というしかない境遇に立たせられた。

音宮がなぜ宮沢が同じ高校だとわからなかった理由は、まだ制服をもらってなかったいや、もらい忘れた、といったほうが正しいだろう。

下見に行ったときにもらうはずだったはずなのにいろいろと邪魔が入ったためもらえなく学校に連絡すると当日でいいとのこと。

「おお、俺も一緒だ。よかった。初日からこんな可愛い女の子と友達ができたし。」

宮沢の顔が赤くなった。どうやら音宮が無意識に放った言葉の『可愛い』という言葉が3秒後に理解したらしい。

「そ、そそそ、そんなことないよ。音宮君にはもっと可愛くて上品な女性がお似合いだと思うよ？」

宮沢は白い肌を赤くさせて音宮の顔を目をそらしながら見ている。その仕草がとても可愛らしく音宮の理性に少しのヒビが入ってしまった。

すると宮沢が可愛らしい仕草を止め考え込む。顔だけは赤みを増すばかりだった。

「どうしよう、告白されちゃった。どうしようどうしよう、、」
と小さな声で自分に言い聞かせていた。

・・・・・・

告白!?

どういうことだ?なぜ告白につながる?音宮の脳はオーバーヒートを起こした。

おそらく宮沢は音宮が言った言葉を拡大させ、まるで音宮が告白したみたいな言い方に聞こえたらしい。

「おい、宮沢、ストップ!!」

「え?ああ!!ごめんなさい。、、せっかく告白してくれたのに、、」

「告白じゃないし、勝手に話を盛り上げるな!!」

音宮の激怒に少し体をビクッと震わせ怯えるが、少し考える素振りをすぐに自分の言ったことに気づき、顔を赤くしうつむく。

(やべ、可愛い。さっきも可愛かったがこれは、、、)

「反則だろおおおお!!」

不意に声が出してしまった。

音宮は頬を少し赤らめ、チラッと見ると宮沢は顔に手を当ててさっきの告白と間違えたことを考えながら一人で悶えていた。

どうやら聞いてなかったらしい。

良かった、と安堵をつく音宮。どうやら聞かれてなかったらしい。
(そういえば時間は大丈夫だろうか?)

不意に気づいた音宮は自分の腕時計を見る。

この腕時計は毎分ごとに衛生から送られてくる電波で時間を正確に合わせている。しかも全国対応版というなんというすぐれものな

のだ!!

7時55分、、、

????、、、!!!!!!

一瞬間が止まったかのような錯覚にあった。

「なあ宮沢、」

音宮は顔を赤くした宮沢に声をかける。その声には焦りと不安が混じっていた。

宮沢は声に気づいたのか、ふえっ?という可愛らしい声で耳を傾ける。

「入学式って何時からだ?」

「えっと、たしか8時15分です。」

どうする。このまま行っても遅刻になる。どうする、どうする、どうする、どうする、

「宮沢、」

「なんですか?」

走るぞ、と告げ宮沢の手を引く。そして走り出す。

音宮たちの新しい物語へ、、、

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0986z/>

World Creation ～世界の創像～

2011年12月3日22時49分発行